

※臨床検査技師学校養成所カリキュラム等改善検討会報告書（令和2年4月8日厚労省発出）より抜粋

大項目	小項目	評価内容
生理学的検査	標準12誘導心電図検査	自己紹介と患者確認ができ、患者との信頼関係を築くことができる
		心電図波形の成り立ちを説明できる
		標準12誘導心電図の電極の取り扱いができる
		標準12誘導心電図の電極の装着部位を説明できる
		標準12誘導心電図の誘導法を説明できる
		標準12誘導心電図検査を実施できる
		心電図波形の計測ができる
		心電図波形とアーチファクトの判別ができる
		正常心電図の判読ができる
		異常心電図の判読ができる
		肺機能検査 (スパイロメトリー)
	測定に必要な生体項目(性別、年齢、身長など)を説明できる	
	フィルター・マウスピース・ノーズクリップの装着が正しくできる	
	vc(vitalcapacity, 肺活量)の測定手技と声かけが正しく最大限の努力を強いている	
	Fvc(Forcedvitalcapacity, 努力性肺活量)の測定手技と声かけが正しく最大限の努力を強いている	
	Fvc測定時に最大吸気流量を確認している	
	数値結果を正しく評価できる	
	フローボリューム曲線を正しく評価できる	
	形態に関する検査	末梢血塗抹標本作成
末梢血塗抹標本の観察(白血球分画)		普通染色(ライト染色等)ができる 普通染色した標本を用いて白血球を分類(白血球6分類)できる
血液型判定	ABO血液型検査	オモテ検査に適した試料を調整できる
		試験管法、スライド(ガラス)法によるオモテ検査を正しく実施できる
		試験管法による標準血球液を用いてウラ検査を正しく実施できる
	RhD血液型検査	オモテ検査、ウラ検査の結果を正しく判定できる
		RhD血液型検査に適した試料を調整できる
		試験管法、スライド(ガラス)法を正しく実施できる 必要に応じてD陰性確認試験を実施できる D陰性確認試験の結果を正しく判定できる
尿沈渣検査	JCCLSの指針に基づく標準的手法による	尿検体を攪拌し、尿カップから沈渣用遠沈管へ分注することができる
	尿沈渣標本の作製	分注量を理解している
		沈渣成分を分離できる
		適量の沈渣を残して遠心上清を吸引できる
		スライドガラスに必要情報を記入することができる
		スライドガラスに適量の沈渣を載せることができる
		空気が入らないようにカバーガラスをかけることができる
		染色液を選択することができる
		1枚のスライドガラスに無染と染色の両標本作製することができる
	10分程度で標本作製することができる	
	鏡検法一顕微鏡操作	弱拡大と強拡大それぞれの対物レンズを選択できる
		コンデンサ絞りを調整することができる
		標本をステージ上で移動することができる
鏡検法一鑑別とカウント	代表的な尿沈渣成分を鑑別することができる	
	カウント結果を表すことができる 結果から主な病態を推定できる	